

授業収録配信システム Q&A

(平成29年3月24日版)

Q1. なぜ初回授業の「サンプル動画」を録画する必要があるのですか？

A. クォーター制の導入に伴い、履修登録期間が短くなるため、学生に受講を決める際の判断材料を提供するためです。

Q2. 一切の授業の収録を望まないのですが

A. 初期設定は「録画しない」としていますので、お申し出がなければ収録しません。収録を希望される場合は、教務課全学教育実施係までお知らせください。「初回のみの収録する」、「すべての回を収録したい」、「あの日とこの日だけは収録してほしい」など、自由なカスタマイズも可能です。

Q3. 教室のカメラはいつも動作しているのですか？

A. 録画状態に設定しない限り、音声と映像は一切録画・蓄積されません。録画状態にあるかどうかは、教壇付近に URL が掲示されているウェブサイトを確認可能です(録画する際、音声については教壇のマイクから集音されます)。

Q4. 「録画状態にない」とは、録画はするけど配信しないという意味では？

A. いいえ、違います。文字通り、録画そのものが行われないことを意味しており、したがって動画ファイルは生成されず、配信するものはそもそも存在しません。

Q5. 授業の振り返りのため、授業動画を自分だけで観たいのですが

A. 収録をご希望の場合は全学教育実施係までお申し出ください。動画の公開範囲は、授業担当者のみ(他には非公開)、受講生のみ、東北大の学生教職員限定、など、細かく設定することが可能です。

Q5-1. 収録された授業をもとに教員が評価を受けることはありますか？

A. ありません。そのような使い方を個人的ではなく組織的に行うことは、本システムの導入趣旨を根本的に変更することになってしまうため、改めて議論が必要です。

Q6. 動画を公開して活用したいのですが、著作権が心配です

A. 適切な引用となっていない著作物を公開(配信)するのは著作権法違反となる可能性がありますので十分な注意が必要です。一方、そうした恐れのない映像は、担当教員の著作物として、自由に使用することができます。

Q6-1. 公開する際に受講学生の同意が必要ではありませんか？

A. 授業収録配信システムが運用されることはもちろん学生にも周知しますが、収録する回の最初に、その旨を念のため受講学生に伝えていただければ助かります。その上で、問題あるシーンが含まれてしまったと授業担当教員が判断された場合または学生から申し出があった場合、動画ファイルを事前編集してから配信することができます。

Q6-2. 授業の一部だけ公開したいのですが

A. 動画はダウンロードして編集することができます。マニュアルを参照し、編集していただいた動画ファイルをアップロードして公開してください。

Q6-3. サンプルの動画も公開のために教員が作業する必要がありますか？

A. 次年度のシラバスとのデータ連携はシステム担当者が行います。公開前に動画を確認いただき、編集が必要な場合はお申し出ください。なお、サンプルの動画は非公開とすることができます。非公開とする場合は、マニュアルを参照の上、非公開に設定くださるようお願いいたします。

Q7. どのような範囲が撮影されますか？

A. 教室によって多少異なりますが、基本的に、教壇と黒板のみです。

下は録画された画像の一例です（授業担当教員の許可をいただいています）。



Q7-1. 教壇で発表を行う、または黒板で問題を解く学生は撮影されます

A. 初回授業でこの状況になることは多くないと思いますが、2回目以降の収録を希望される場合には普通に起きることと考えられます。この点については、Q6-1をご参照ください。

Q7-2. 学生の質問も収録されるのですか？

A. 収録音声は教員のマイクからのみとなっていますので、教員がマイクを向けるなどしない限り、受講学生の質問はほとんど聞き取れないレベルとなります。もし、記録に残すべき質問と判断された場合は、答える前に質問の要点を復唱するなどの工夫をお願いいたします。

Q8. 反転学習に活用したいのですが

A. 原理的には当該回の前に講義などが収録されていればよいのですが、システム稼働初年度に反転授業を実施するには、収録と授業で約2倍の時間が必要です。そこで例えば、あるセメスターで担当する授業のすべての回を収録し、次年度の同授業でそれを活用して反転授業を実施する方法が考えられます。

Q9. アクティブ・ラーニングの授業には不向きなのではありませんか？

A. ご指摘のとおり、授業収録配信システムが力を発揮できない授業があり、例えば体育実技と実験の授業を現状ではカバーしていません。

ただ、PBL などアクティブ・ラーニングの授業であっても、オリエンテーションの回は受講学生への留意事項の記録として収録の価値があるかもしれませんし、学生による企画発表・成果発表の回などは収録して、学生同士のピア評価などに活用できる可能性があります。

様々な実施形態の授業で授業収録配信システムの新しい活用法を開発し、学生の学びを支援する教育用インフラとして育ててくださることを願っています。